国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/
発　行　連携医療ネット
住　所　東京都新宿区戸山1-21-1
代 表　ＴＥＬ　03-3202-7181
ＦＡＸ　03-3207-1038
地域医療連携室
直 通　ＴＥＬ　03-3202-8066
ＦＡＸ　03-3202-1003

連携医療NEWS

Vol.35　11月号

内　容
・重症喘息に対する新規非薬物療法 ・・・・・1
・ＪＭＩＰ ・・・・・・・・・・・・・・・・2
・ＩＳＯ ・・・・・・・・・・・・・・・・・3
旬の味覚
・看護通信 ・・・・・・・・・・・・・・・・4

重症喘息に対する新規非薬物療法
～気管支サーモプラスティ～

呼吸器内科医長
飯倉　元保

当センター呼吸器内科は、肺癌、喘息、COPD、結核、間質性肺炎など全ての呼吸器疾患を扱っております。その中でも気管支喘息患者数は以前から多く、特に重症難治性患者が多数います。重症喘息患者に対しては、抗IgE抗体治療や種々の抗サイトカイン抗体治療（治験）などの薬物療法を積極的に行い、できる限り全身ステロイド治療を減らすように心がけています。

非薬物療法としては、重症喘息患者に対する気管支サーモプラスティを全国に先駆けていち早く導入し、2015年10月現在では全国で最も多くの治療症例数に達しています。適応は、気管支鏡手技が可能な、高用量の吸入ステロイド薬及び長時間作用性β２刺激薬で喘息症状がコントロールできない１８歳以上の重症喘息患者です。気管支内視鏡下に細いバスケットカテーテルを3～10mmの気管支に挿入し、65℃10秒間高周波エネルギーを通電することで、気管支壁を温め気管支平滑筋量を減少させるという新規非薬物療法です。3週間以上の間隔をあけ、3回（右下葉支、左下葉支、両上葉支）に分けて治療を行います。毎回4～7日間の入院治療となります。米国では、2010年より既にFDAに承認され5年以上の治療の歴史があります。喘息関連QOLの改善や喘息増悪抑制の治療効果が術後１年以内に認められ、その効果は少なくとも５年間継続することが報告されています。副作用は術後治療局所の喘鳴などが生じますが１週間以内に改善します。当院では8症例の治療を施行し、皆、短期的には自覚症状や呼吸機能の改善などの治療効果が認められ、比較的安全に治療が施行できています。入院費も含め１回の治療で約５０万円はかかる高額の治療でありますが、東京都の喘息医療費助成患者では補助されますし、通常の保険診療であれば、高額療養費制度で補助されます。

日本では、2013年の時点でも未だに1728人の喘息死が計上されており、喘息医療費高騰の原因は重症喘息患者の治療費にあり、喘息死回避のためにも重症喘息患者に対する新規治療法の導入は有用です。保険適応となっていても多くの喘息患者にはまだ知られていない治療法であり、難治性喘息患者の治療法の選択肢の一つとして、新規非薬物療法である気管支サーモプラスティを提供したいと考えています。

特に重症喘息で、抗IgE抗体、全身ステロイド薬を使用している患者や増悪発作を繰り返す患者は、当センターに是非ご紹介いただければ幸いです。

センター病院は9月29日付けでJMIP認証を取得しました

副院長

原　徹男

JMIP（外国人患者受け入れ医療機関認証制度：Japan Medical Service Accreditation for International Patients）とは、日本医療教育財団が2013年3月より実施している国の事業の一環として構築された認証制度で、日本国内の医療機関に対し、多言語による診療案内や、異文化・宗教に配慮した対応など、外国人患者の受入れに関する体制を第三者的に評価し、医療を必要とするすべての人に、安心・安全な医療サービスを提供できる体制づくりを支援する制度です。審査方法は、認定調査員による書面調査と訪問調査からなり、書面調査は「現況調査票」や「自己評価票」などを事前に提出、訪問調査では面接や院内ラウンド調査などを組み合わせ、外国人患者の受入れ体制が適切かつ円滑に実施されているかなどが入念にチェックされます。審査は2日間に渡って実施され、認定調査員の調査をもとに、「認証審査会」において最終的な判断がなされるという流れになっております。評価内容は 第1分類：受入れ対応 、第2分類：患者サービス、第3分類：医療提供の運営、第4分類：組織体制と管理、第5分類：改善に向けた取り組み、の5分野にわかれ、全部で94の評価項目から構成されております。およそ1年の準備期間を設け、評価項目をすべて見直し足らぬところを一つ一つ克服していくという地道な作業が必要でした。事前の書面調査後、実際の訪問審査は7月29、30日の2日間にわたって実施されました。幸いにして結果は、評価項目94のうち、“部分的に適切”はわずかに5項目でそのほか89項目はすべて適切に行われていると判断されました。不適切項目はひとつもなく、日本医療教育財団の定める認証基準をすべて達成していると認められ、9月29日付けで無事認証を取得しました。2013年3月22日の3医療機関の初認証からおよそ2年半が経過していますが、今回で当センター病院を含め認証病院は全国で11病院となり、東京都内では当センター病院が第1号となっております。

ただ、認証をとってこれで終わりではなく、まだまだ改善すべき点は多々あります。また認証期間はわずかに3年間ですので、今後も常にupdateしてゆかねばなりません。外国人患者のための療養環境を整えることは自国民にとってもその原点を見直すことになり、すべての患者さんにとってよりよい快適な療養環境の提供が可能になるものと考えております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、本認証取得のために多大な労をとって頂いた国際診療部の方々を始め、多くの職員の方々にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

CERTIFICATE OF ACCREDITATION

認　証　書

Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine

国立国際医療研究センター病院　殿

Accreditation number： AI0009

認証番号： 第 AI0009号

Applicable version： ver 1.1

適用した評価項目： ver 1.1

This is to certify that the healthcare establishment mentioned above has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JMIP standards by the Japan Medical Education Foundation.

貴院において日本医療教育財団の定める
外国人患者受入れ医療機関認証制度の認証基準を達成していることを証します。

Effective： 29 September 2015 through 28 September 2018

認証期間： 2015 年 9月 29 日から 2018 年 9 月 28 日まで

Date of issue： 29 September 2015

発行日： 2015 年 9月 29 日

Japan Medical Education Foundation

一般財団法人 日本医療教育財団

Administrative director Hiroshi Ohashi

理事長 大橋 廣司

参考：JMIPのHPのアドレスはhttp://jmip.jme.or.jp/です。

ISO 15189の認定を取得して

臨床検査技師長

永井　正樹

この度、当センター病院の中央検査部門では、臨床検査室の国際規格であるISO 15189の認定を取得しました。

ISO 15189は、臨床検査室の質と能力を向上させるために必要な様々な要求事項により規定されており、その要求事項は品質管理上のものと技術管理上のものとに大別されています。

通常、臨床検査室の業務はその大部分がブラックボックス化されているため、このような第三者機関の評価を受けることにより、その検査室の質と能力を客観的に評価することが可能になります。

患者さんに対して、安全かつ安心で質の高い医療を提供するためには、質が担保された臨床検査データの存在が必要不可欠ですので、今回の認定取得は大変意義深いものであると思っています。

当検査部門の認定番号は「RML00950」です。これは国内で95番目に認定されたことを表しています。我が国はISO 15189の取得に関しては後進国であり、全国に存在する3,209の検査室のうち、わずか95の検査室（2.9%）しか本認定を取得していません。また取得しても継続が困難になる検査室も存在するため、現時点では85の検査室が認定されているに過ぎません。

我々も認定取得は達成したものの、あくまでもスタート地点に立てたに過ぎません。今後は4年後の更新審査までの間に2回のサーベイランス受審が義務付けされていますので、ほぼ毎年の審査をクリアしながら、質と能力の維持向上に努めていきたいと思います。

みなさまには引き続き様々な面でご支援をいただくことになると思いますが、中央検査部門職員一丸となってさらに精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

ilac-MRA　JAB Medical RML00950

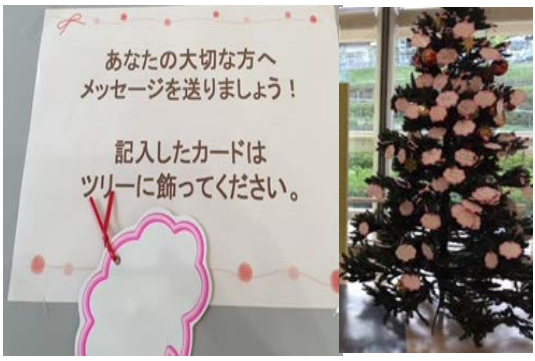
臨床検査室
認定証

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門

公益財団法人 日本適合性認定協会

看護通信

ピンクリボン活動



当センターでは、毎年10月にがん化学療法認定看護師が主催し、乳がんの正しい知識と早期発見・受診の啓蒙活動である「ピンクリボンフェアー」を開催しています。

当センターに通院・入院する患者・家族はもちろん、病院に勤務する女性職員に向け、乳がん検診を勧めるとともに、治療や日常生活や家族関係などに関する様々な相談や情報提供を行っています。また、ピンクリボンツリーに大切な方へのメッセージを記入していただき飾っています。

乳がんの一次検診を受け、疑いのある方は、当センター乳腺外科で二次検診を行っています。毎週火曜日は、乳腺外科医とがん化学療法看護認定看護師の協働で乳腺ケア外来を開設し、二次検診後のフォローを行っています。連携登録医の諸先生方には、医療連携室を通じてご利用頂ければ幸いです。

医師人事異動

採用・転入等				退職・転出等			
発令日	役職名	氏　名	備　考	発令日	役職名	氏　名	備　考
H27.10.1	放射線診断科医師	志多　由孝		H27.9.30	ＡＣＣ科医師	本田　元人	
H27.11.1	脳神経外科医師	髙畠　和彦		H27.9.30	放射線診断科医師	増田　敏文	
				H27.10.21	人間ドック科医師	米田　有紀	

お知らせ

日本の健康保険のない外国人・日本人の会計法の変更について

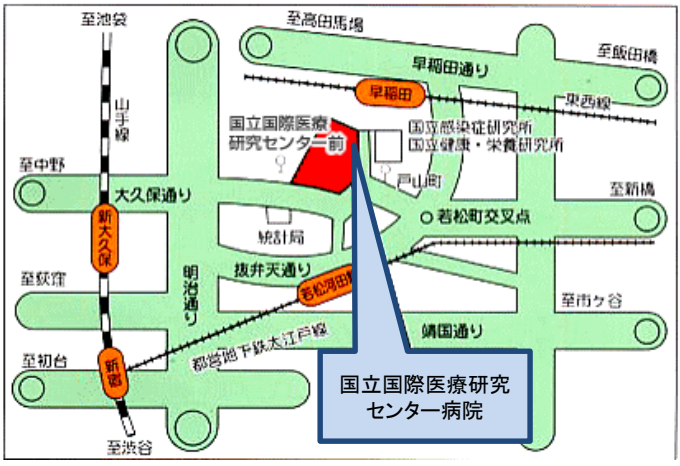
国立国際医療研究センターでは、平成27年10月1日から日本の健康保険証をお持ちでない外国人および日本人の方の診療報酬の算定を、従来の1点10円から20円に変更をいたしました。当院をご紹介いただく際に、この変更点についてご留意いただけますようお願いいたします。（個室料や文書料等保険外のものの価格はそのままです）

外来診療時間　　８：30～17：15
- **初診受付　紹介状が無い場合**　　８：30～11：00
  紹介状が有る場合　　８：30～14：00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

- **休診日**　　土・日・祝日・年末年始

アクセス
- 都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- 東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行
  国立国際医療研究センター前 下車
- 新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行
  国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院　　〒162-8655　東京都新宿区戸山1-21-1
ＴＥＬ　03-3202-7181　ＦＡＸ　03-3207-1038　ホームページ　http://www.ncgm.go.jp/